



がんばる自治体職員さん

ごみ減量に向けた取り組み

掛川市環境経済部環境政策課課長 佐藤正弘



掛川市は、平成の大合併により平成 17 年 4 月に旧掛川市、大東町、大須賀町が合併してでき、今年で 11 年目を迎えました。

日本列島のほぼ中央、静岡県西部に位置し、政令市の静岡市、浜松市の中間にある人口約 11 万 8 千人の周辺圏域のなかでも中核的な都市です。東名・新東名 IC や新幹線駅を擁し、東には富士山静岡空港が近接するなど広域交通網の整備も進んでいます。

市域は、東西約 16km、南北約 30km、面積は 265.6 km²で、北には南アルプスの南麓が、南には遠州灘の大海原が広がる自然豊かな環境にあります。



合併を機にごみ減量大作戦

ごみ減量の出発点は、1 市 2 町が合併した翌年でした。当時のごみ処理は、掛川区域が環境資源ギャラリー（菊川市との一部事務組合）で、大東・大須賀区域が環境保全センター（旧大東町と旧大須賀町の一部事務組合）で別々に処理を行っていました。

しかし、環境保全センターが老朽化などにより平成 20 年 3 月には閉鎖しなければならなかったことから、大東・大須賀区域のごみを環境資源ギャラリーで処理できないかを検討しました。環境資源ギャラリーは、掛川区域と菊川市の処理量に合わせて建設されているため、大東・大須賀区域のごみを一緒に処理するには燃えるごみの減量が必要でした。こうした中で全市民が協働して、「ごみ減量大作戦」に取り組んでくださいました。

実施期間：平成 18 年度～平成 19 年度

目標：既存施設で焼却可能になるだけの可燃ごみの減量化

1 人 1 日当たりの可燃ごみ排出量減量の目標設定 7% (実績 9.7%)

基準値 (平成 17 年 9 月～平成 18 年 8 月) 588g → 平成 19 年度 531g

- ① ごみ排出の巡回指導とごみ減量大作戦説明会の開催
集積所巡回指導 1,163 カ所 分別説明会 480 回 参加者 20,151 人
- ② シンボルマーク、キャッチフレーズの公募
- ③ 啓発用のぼり旗 (写真) の設置、チラシ配布、広報掲載
のぼり旗 1,000 枚 設置場所：集会所、市役所、集積所等
- ④ 剪定枝の地区回収、資源化 平成 19 年度 594t
- ⑤ 生ごみ処理容器の普及 319 件 (平成 21 年度をもって事業廃止)
- ⑥ 食用油の BDF 化



新ごみ減量大作戦を展開中

2 カ年でのごみ減量の目標を達成しましたが、引き続き環境資源ギャラリーの処理能力に余裕を持たせ、長期的に安定したごみ処理ができることを目指して新ごみ減量大作戦を、現在展開しています。

- 目標：1) 環境省発表のごみ総排出量 620g / 人・日
 (平成 26 年度 651.1g / 人・日 全国の人口 10 万人以上 50 万人未満の市で第 2 位)
 2) 可燃ごみ排出量 486 g / 人・日 (平成 27 年度 545.9 g / 人・日)
- ① 事業系ごみ搬入時検査と排出事業所への分別指導 適正な分別と産業廃棄物の混入防止確認
 - ② 指定ごみ袋の記名制全区統一 地区名、氏名(番号等)の記入
 - ③ 古紙回収コンテナ設置の推進
平成 24 年度より行政回収廃止、公共施設や量販店に古紙回収コンテナ設置 約 40 ヲ所
 - ④ 資源化物回収活動交付金
古紙回収業者の引取価格が 4 円を下回る場合にその差額を補助 平成 27 年度 164 t
 - ⑤ 大型小売店との協定締結によるレジ袋有料化
市内スーパー 19 店舗の内 18 店舗で有料化、マイバック持参率 90%以上
 - ⑥ 剪定枝処理事業補助金制度
民間の再資源化処理施設への住民持ち込み 1 kg につき 5 円補助 平成 27 年度 794 t
 - ⑦ 古布、くつ、かばんの回収ボックスの設置
「掛川市古布等回収に関するパートナーシップ協定」により実施 市内 4 ヲ所
 - ⑧ 使用済小型家電回収ボックスの設置 市役所、各支所へのボックス設置 3 ヲ所
 - ⑨ クリーン推進員の協力 (写真はクリーン推進員研修会)
平成 28 年度は 635 人に委嘱 (ボランティア)
ごみの分別や排出マナー等の啓発指導
 - ⑩ かけがわ美化推進ボランティア事業
企業や団体、個人の清掃活動による景観美化の向上
ポイ捨て抑制 平成 28 年度 112 団体
 - ⑪ 剪定枝粉碎機貸出制度 (チップパー 3 台)
剪定枝の有効利用と廃棄物の減量を目的に自治会
へ無償貸出し 平成 27 年 11 月から
 - ⑫ 映像記録カメラ貸出制度 (9 台)
ごみ集積所への不正排出防止、資源ごみの持ち去
り、不法投棄の防止 平成 27 年 11 月から



ごみ処理有料化

平成 27 年 4 月よりごみ袋の有料化を実施しました。30ℓ 袋を当初の価格より約 13 円値上げし 21.6 円としています。値上げ前の年と比較して、平成 27 年度の可燃ごみ(市収集分)は 1.3% の増加となり、値上げによる減量効果は今のところありません。これは値上げの年の半年間は従来のごみ袋が使用できたため、使い切りたい心理が働いたものと考えられます。今後もごみ量の動向に注視していきたいと思ひます。



ごみ減量日本一への継続挑戦!

今後の取り組みとしては、生ごみの減量化を促進するため、ソフト施策では「食べきり」運動の推進、ハード施策では生ごみ処理容器(キエーロ等)への購入補助を予定しています。

以上が掛川市のごみ減量に向けた取り組みとなります。ごみ減量は一朝一夕で成せるものではありません。一つ一つの施策を積み重ね実行していくことが、ごみ減量への近道であり、非常に重要なことだとつくづく感じている今日この頃です。(環境行政 1 年目の感想です。)